

カゴシマアートナビ Kagoshima Art Navi. かがしま文化情報センター. かがしま文化情報センター [KIC34]



4山折



QRコードの読み取りで、すぐに道案内

- 1 | 表紙のQRコードを端末で読み取り、かがしま文化情報センターのホームページへ。
2 | 最初の画面に出てきた、「□番のピンへ移動」というコメントの、□をタッチして行きたい場所の番号を入力すると掲載スポットの地図・詳細が表示されます。

かがしま文化情報センター (KIC3) 〒892-0815 鹿児島市易居町1-2 鹿児島市役所 みなと大通り別館1F

本紙面に掲載しているイベントや施設についての開催・開館状況など最新の情報は各施設へご確認ください。

鹿児島中央駅〜市役所

ー ギャラリーー

02 art space&shop haru 鹿児島市平之町9-31 tel.099-295-3758

06 山形屋画廊 鹿児島市金生町3-1 山形屋3号館3階

08 gallery HINGE 鹿児島市加治屋町1-7山崎ビル207(第二柳本寺ビル)

09 さつまブランドギャラリー 鹿児島市新照院町41-1 SHIROYAMA HOTEL

05 Shop&Gallery SOMETHING 鹿児島市東千石町11-14-2 サムシンクビル2F

1山折

07 ギャラリーー白樺 鹿児島市泉町14-9 tel.099-226-4518

04 zenzaiマーヅィナルギャラリー 鹿児島市呉服町6-5 マルヤガーデンズ7F

ー 美術館・博物館

08 陽山美術館 鹿児島市山下町8-3美術館ビル5F

05 鹿児島市立美術館 鹿児島市城山町4-36 tel.099-224-3400

07 鹿児島市立美術館 鹿児島市城山町4-36 tel.099-224-3400

06 さつまブランドギャラリー 鹿児島市新照院町41-1 SHIROYAMA HOTEL

05 Shop&Gallery SOMETHING 鹿児島市東千石町11-14-2 サムシンクビル2F

04 鹿児島県歴史・美術センター 黎明館 鹿児島市城山町 7-2 tel.099-222-5100

ー 複合文化施設

04 グッドネイバース 鹿児島市住吉町7-1 tel.099-295-6658

10 レトロフトチトセ(1F) レトロフトMuseo(2F)

06 鹿児島県庁舎正面門 鹿児島市山下町14-50

ー 建築

02 鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂 鹿児島市照国町13-42

03 マルヤガーデンズ 鹿児島市呉服町6-5 設計:みかんぐみ

05 山形屋 鹿児島市金生町3-1 設計:齋藤 久孝

07 鹿児島県産業会館 鹿児島市名山町9-1 設計:内藤建築事務所

08 南日本銀行本店 鹿児島市山下町1-1 設計:三上 昇

2谷折

07 鹿児島市庁舎 本館 鹿児島市山下町11-1 設計:大蔵省官繕管財局工務部

03 鹿児島県立博物館 鹿児島市城山町1-1 設計:岩下 松雄

06 旧鹿児島県立博物館 考古資料館 鹿児島市城山町1-5

05 鹿児島県教育会館 鹿児島市山下町4-18 設計:三上 昇

06 鹿児島市中央公民館 (元鹿児島市公会堂) 鹿児島市山下町5-9 設計:片岡 安

08 旧鹿児島県庁舎正面門 鹿児島市山下町14-50 設計:不詳

04 県政記念館 (旧鹿児島県庁舎本館) 鹿児島市山下町14-50 設計:曾禰中條建築事務所

07 日本ガス 鹿児島市中央町8-2 設計:渡辺 節

06 BIGIビル 鹿児島市東千石町18-8 設計:安藤 忠雄

その他市内

ー ギャラリーー

08 Mizuho Oshiro ギャラリーー 鹿児島市薬原6-51-25 tel.099-813-5460

02 長島美術館 鹿児島市武 3-42-18 tel.099-250-5400

2谷折

04 壺中楽 鹿児島市吉野町2433-17 tel.099-243-2555

02 コーヒーギャラリー蒼 鹿児島市中山町 918-5 tel.099-260-6106

05 Gallery Sage ギャラリーーセージ 鹿児島市城西2丁目10-22 tel.099-210-5802

04 三宅美術館 鹿児島市谷山中央1-4319-4 tel.099-266-0066

ー 美術館・博物館

02 桜島ビジターセンター 鹿児島市桜島横山町1722-29

05 児玉美術館 鹿児島市下福元町8251-1 tel.099-262-0050

04 尚古集成館 (2024年10月末まで休館) 鹿児島市吉野町9698-1 tel.099-247-1511

02 長島美術館 鹿児島市武 3-42-18 tel.099-250-5400

04 しょうぶ学園 しょうぶ文化芸術支援センター アムアの森

04 しょうぶ学園 しょうぶ文化芸術支援センター アムアの森

3山折

07 鹿児島市立科学館 鹿児島市鴨池 2-31-18 tel.099-250-8511

04 中村晋也美術館 鹿児島市石谷町2366 tel.099-246-7070

04 三宅美術館 鹿児島市谷山中央1-4319-4 tel.099-266-0066

02 桜島ビジターセンター 鹿児島市桜島横山町1722-29

05 児玉美術館 鹿児島市下福元町8251-1 tel.099-262-0050

04 尚古集成館 (2024年10月末まで休館) 鹿児島市吉野町9698-1 tel.099-247-1511

02 長島美術館 鹿児島市武 3-42-18 tel.099-250-5400

04 しょうぶ学園 しょうぶ文化芸術支援センター アムアの森

04 しょうぶ学園 しょうぶ文化芸術支援センター アムアの森

ー 建築

02 鹿児島旧港北防波堤灯台 鹿児島市本港新町 設計:不詳

05 南州神社電燈 一对 鹿児島市上竜尾町2-1 設計:不詳

06 旧重富島津家住宅米蔵 鹿児島市清水町31-8 設計:不詳

07 磯芸芸館 鹿児島市吉野町9688-24 設計:隈元 長栄

08 霧島アート (旧鹿児島紡績所技師館) 鹿児島市吉野町9685-15 設計:不詳

05 旧茅ヶ野島津家 金山鉱業事業所 鹿児島市吉野町9688-1 設計:不詳

06 旧鹿児島刑務所正門 鹿児島市永吉1-30-1 設計:山下 啓次郎

03 イイテラス 鹿児島市荒田1-16-7 設計:アトリエ環建築設計事務所

04 鹿児島大学稲盛会館 鹿児島市都元1-21-40 設計:安藤 忠雄

05 鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室 鹿児島市都元1-21-30 設計:文部省

06 鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室 鹿児島市都元1-21-30

06 JAXA 種子島宇宙センター 熊毛郡南種子町大字釜永宇麻津

市外

ー ギャラリーー

04 ギャラリーー Do-Ma 始良市加治木町飯屋町81 tel.0995-55-7077

ー 美術館・博物館

07 スターランドAIRA 始良市北山997-16 tel.0995-68-0688

04 霧島アートの森 始良郡湧水町木場6340-220 tel.0995-74-5945

05 上野原縄文の森 霧島市国分上野原縄文の森1-1 tel.0995-48-5701

06 鹿児島市立美術館 (みやまコンセル) 霧島市牧園町高千穂3311-29 設計:横橋合計画事務所

05 鹿児島市立美術館 (みやまコンセル) 霧島市牧園町高千穂3311-29 設計:横橋合計画事務所

06 薩摩伝承館 指宿市東方12131-4 (指宿白水館敷地内) tel.0993-23-0211

06 JAXA 種子島宇宙センター 熊毛郡南種子町大字釜永宇麻津

06 JAXA 種子島宇宙センター 熊毛郡南種子町大字釜永宇麻津

3山折

06 田中一村記念美術館 奄美市笠利町節田1834 tel.0997-55-2635

ー 建築

09 霧島国際音楽ホール (みやまコンセル) 霧島市牧園町高千穂3311-29 設計:横橋合計画事務所

01 輝北天球館 鹿屋市輝北町市成1660-3 設計:高崎 正治

06 霧島アートの森 始良郡湧水町木場6340-220 tel.0995-74-5945

06 霧島アートの森 始良郡湧水町木場6340-220 tel.0995-74-5945

06 薩摩伝承館 指宿市東方12131-4 (指宿白水館敷地内) tel.0993-23-0211

06 JAXA 種子島宇宙センター 熊毛郡南種子町大字釜永宇麻津 tel.0997-26-2111

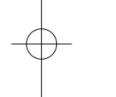
06 JAXA 種子島宇宙センター 熊毛郡南種子町大字釜永宇麻津 tel.0997-26-2111

3山折



ギャラリスト紹介 稲葉麻里子さん (鹿児島市立美術館 学芸員)

所蔵品の保管・研究や、展示会の企画・運営が主な仕事です。市立美術館には6300点ほどの所蔵品があり、16世紀室町時代のものも。作品を取り扱う際、これからも未来へ大切に受け継いでいかなければと身を引き締まる思いです。所蔵品の展示では、季節感を意識し、さまざまなテーマで作品を紹介し、幅広い分野や時代の美術に触れられるように企画します。『鹿児島で本物が見られるなんて...』など、来場者からの嬉しい反応が仕事の励みになっています。私が学芸員を目指したのは、幼い頃から美術館が身近で大好きな場所だったから。ひとりでも、誰かと一緒にでも、ひとつの作品に会いに行ったり、カフェでお茶をしたり、美術館は色々な楽しみ方ができる空間だと思います。市立美術館は敷居が高く感じるというお声も聞きますが、より開かれた場所にしていきたいです。展示会だけでなく、美術講座や制作体験などイベントも随時開催していますので、ぜひお気軽にお越しください。(鹿児島市立美術館 学芸員)



所蔵品の保管・研究や、展示会の企画・運営が主な仕事です。市立美術館には6300点ほどの所蔵品があり、16世紀室町時代のものも。作品を取り扱う際、これからも未来へ大切に受け継いでいかなければと身を引き締まる思いです。所蔵品の展示では、季節感を意識し、さまざまなテーマで作品を紹介し、幅広い分野や時代の美術に触れられるように企画します。『鹿児島で本物が見られるなんて...』など、来場者からの嬉しい反応が仕事の励みになっています。私が学芸員を目指したのは、幼い頃から美術館が身近で大好きな場所だったから。ひとりでも、誰かと一緒にでも、ひとつの作品に会いに行ったり、カフェでお茶をしたり、美術館は色々な楽しみ方ができる空間だと思います。市立美術館は敷居が高く感じるというお声も聞きますが、より開かれた場所にしていきたいです。展示会だけでなく、美術講座や制作体験などイベントも随時開催していますので、ぜひお気軽にお越しください。(鹿児島市立美術館 学芸員)

3山折

まだ見ぬ「光」を求めて

話を聞いた人：YOSHIROTTEN (アーティスト/アートディレクター)

鹿児島市のなかでも、特に自然豊かな大隅半島にある街・鹿屋。この地に生まれ育ち、現在は東京を拠点にアーティスト/アートディレクターとして、国内外で活躍しているYOSHIROTTEN(ヨシロットン)さん。クリエイティブの原風景である幼少期の思い出から作品に込められたメッセージ、鹿児島の魅力についても語っていただきました。



YOSHIROTTEN
(アーティスト/アートディレクター)
1983年、鹿屋生まれ。高校卒業後、都内のデザイン専門学校で学び、デザイン会社に就職。2008年に独立し、2015年にクリエイティブスタジオYARを設立。グラフィックのほか、映像、立体、空間演出、インスタレーション、CG、音楽など、幅広いジャンルの表現方法にて制作を行い、ミュージシャンのアートワーク制作やファッションブランドの広告制作、店舗デザインなども手がける。

YOSHIROTTENができるまで

僕は鹿児島にいた頃は、鹿屋は県で2番目に大きな街にも関わらず、海と山に囲まれ、自然が身近なところがありました。実家は、小学校の学区で一番遠く、街中にある学校から歩いて50分ほどかかる山のふもとにありました。友達と一緒に帰ると最後はひとりになるんです。山の入口から80m先の自宅までは私道で、街灯さえありませんでした。寄り道をしたり、友達と遊んだりして帰りが遅くなると、真っ暗な道をひとりで歩かなくてはならない。それがとても怖くて、目が暗闇にだんだんと慣れてくると、少しずつ道が見えてきて、暗いからこそ匂いや風に敏感になる。感覚が研ぎ澄まされる貴重な経験でしたし、いままも活かされていると思います。子どもが真っ暗な夜道を歩くことは、ほとんどないことですから。鹿屋の街から見える空は綺麗で、登下校時に空を見上げては、「すごいなあ、地球って」「この緑の山がピンク

色だったら良いのに」と想像をふくらませるような子どもでした。帰宅すると、ゲーム機で遊んだり、マンガを読んだりすることはほぼなく、自分なりにルールを考えてゲームをつくって、ひとり遊びをしていましたね。

遊びの世界が変わったのは、中学生の頃。パンクロックや洋楽など、音楽に出会ってから。同時にファッションやデザインに興味をもち始めました。雑誌を読んだり、ラジオを聴いたり、友達のお兄ちゃんからCDを借りるようになって。月に一度は、「テンパーク(中央公園)」に行って、天文館で古着を買っていました。鹿屋からは、バスに乗って垂水港からフェリーに乗り、それからまたバスを乗り継いで行くんですが、その移動時間も楽しかった思い出があります。当時よく通っていたのは、テンパーク周辺の雑居ビル。めちゃくちゃカッコいい古着屋やスケートボード屋、雑貨屋が入っていて、ファッションやカルチャーに触れて“目覚めた”という感じですね。高校生になってからは、DJも始めました。当初はロックをかけていましたが、東京でダンスミュージックを知り、ハウスやテクノ、エレクトロのパーティーを主催するように。いままも音楽ユニット・YATTとして活動していて、音楽自体は相方が、コンセプトを僕が考えて一緒に曲づくりをしています。昨年末にAmazon musicからリリースして、今年もアルバムのリリース予定があります。僕の展示には音楽も欠かせなくて、空間に合わせた音楽表現を行っています。

グラフィックや映像、立体、空間、音楽など、表現アプローチが多岐にわたるため、この仕事のきっかけについてよく尋ねられるのですが、原点は



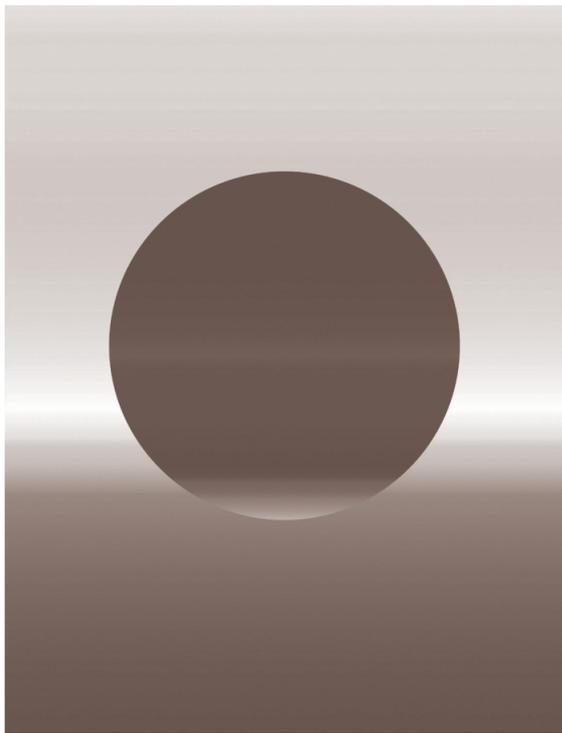
左:Daïdo Moriama × YOSHIROTTENSHINJUKU_RESOLUTION
右:Mickey Mouse Now and Future | PARCO MUSEUM TOKYO

高校生のとき。当時スケートボードをしていて、音楽やファッションも好きで、この3つには共通点がありました。Tシャツやスケートボード、CDジャケットのデザインも、一瞬でメッセージを伝えることができるグラフィックに集約されるんです。「グラフィックデザイナーになれば、好きなこと全部が仕事になるんだ。最高だ」と思い、高校卒業後に上京してデザインの専門学校へ入学。同時にレコード会社でインターンをしながらデザインを始めました。その後、デザイン会社にも勤務して5年ほど、デザイナー、アートディレクターとして働きました。その間も自主イベントを開催していたので、自然と音楽と関わっていましたし、会場の空間デザインもおおのずと手がけていることはずっと変わっていないんです。

「光」の先にあるもの

作品づくりのテーマは「光」。光があつて何かが初めて見えてくる。だからこそ、作品で使用する素材は光を視覚化してくれるアルミやステンレスといった反射素材だったり、透明なものだったり。わくわくするものや、作品との意味づけや関係性を鑑みて採用します。光がなければ僕らが見えている世界はないですし、作品を観てもらうこともできない。根源的に光とは何かを追い求めていますね。

2018年の個展『FUTURE NATURE』のコンセプトは、光の現象でした。普段見えている可視光線とは異なる光が、宇宙にはまだまだたくさん存在している。それらを通して見ると、いま見ている景色や物はまた違って見えると思うんです。鑑賞者も「この世



SUN

界はこうだ」と決まったものではないという意識をもってくれたら、もっといろいろな可能性や問いなど、多くのものを生み出すきっかけになるのではないかと考えています。自身の作品は、自然と、相反する人工物・デジタル・SF要素の組み合わせだと評されることがあります。僕はこの世で一番最強で、一番美しく、一番偉大なものは自然で、自然に勝るものはないと考えています。では、人間の僕に何ができるか。色を変えてみようとか、オブジェを乗っけてみようとか、違う角度から自然にスポットを当ててみる。シンプルに自然がかっこいいと思っているので、人の手を介して架空の世界を創り上げる。想像力を喚起することですよね。それを観て美しいと感じてくれる人がいたら、これこそが僕ができるアートの表現です。

拡張するデザイン

僕はアーティスト活動を行う一方、デザイン会社を経営していてアートディレクター、グラフィックデザイナーという、ふたつの軸を行き来しています。クライアントワークはアート表現というより、デザインワークも含んだオーダー。デザインはアートと違って「答え」があるもの。クライアントの要望に

から空間表現へと落とし込んでいく。ただかっこいいとか気持ち良いというだけでなく、意味づけが必要なんです。技術進化によって、過去には作り得なかった身体的な表現が可能になりました。先代のグラフィックデザイナーたちの偉業を超えることは難しいかもしれませんが、時代に合わせた表現で挑戦し続けたいですね。

鹿児島市の魅力を再発掘

東京での暮らしが長くなるにつれ、鹿児島は帰るたびに良い場所だと感じていました。20代はほとんど帰省してなくて、30代に入ってから年に1〜2回は帰るようになりました。それから自然と関連するような仕事が増えて、鹿児島がすごい場所だと強く思うようになりました。先日、東京で生まれ育った若いスタッフを連れて帰省したんです、彼らがどう思うのかに興味があつて。するとやっぱり感動しているんですね。自然が圧倒的で太陽との距離が近い、と。僕自身も「未だにこんなものが残っているんだ」と驚かされ、観光地とはまた違った資源として残せないかと考える機会になりました。霧島方面には自宅に温泉があると、贅沢ですよね。鹿児島のおすすめスポットは、絶景が見れる「ユクサおおすみ海の学校」のあたり。ポーッとしながら夕日を眺めてほしいですね。それから、最近海外帰りの同年代が活躍している鹿屋の街も。ホテルやレストラン、植物園など、地元の素材を上手に活かしていてとても面白い。

今後は、美術館での初個展を鹿児島で開催したいと思っています。これまでいろいろな場所で個展を行ってきましたが、美術館で初めて開催するなら自分のルーツである鹿児島が良い。あとは、鹿児島県の産業とのコラボレーションももっとやりたいですね。特に僕がつくりたいのは宿泊ができるメディテーション施設。観光資源がないと言われていたような地域こそ、まだ見ぬ美しい自然や美味しい食べ物があつて、本当のラグジュアリーだと興味をもっているんです。そこに、コロナ禍での鑑賞体験をもとにした作品を組み合わせた。マスクをした状態で展示を観たときに、たった1枚のフィルターがあるだけで、匂いとか、空気との触れ合いとか、これまでの感覚とあまりにズレがあつて。そこで、プライベートな空間で、衣服さえ何もない状態で作品に対峙したら、すごく感覚に響くのではという仮説のもと、宿泊型の作品を考えました。僕の作品は、「新しい光を通して、自然を新たな角度でみせていく」のですが、宿泊型の作品ではあえて光のない夜から作品に向き合ってもらい、夜が明けたら実在する自然と作品に向き合ってもらう。これを「SUN HOUSE」と呼んでいるのですが、いろいろな場所で実行していきたいですね。遊びながらクリエイティブに触れた子どもたちが、どのように育っていくのか興味があります。面白いことにお金を使える世の中になったら良いと思います。



imma天 at Diesel Art Gallery